

勉強会

質問や提案を作成するための勉強会を2回行いました。最初は緊張しましたが、希望する分野ごとのグループに分かれ、現在の状況や10年後の広島県について議論するうちにすっかりうちとけて、色々な意見が出てきました。県職員や大学生サポーターからアドバイスをもらって、質問をまとめていきました。本番に向けて、議場見学も行いました。



日時 7月6日(土)・7月20日(土)
場所 広島YMCA国際文化センター・広島県庁講堂

参加した子供議員の感想



色々な人と意見を交換でき、良い機会になった。

自分が重要な役割を果たせたことで、自信を持つことができた。

広島県の施策の知らなかった部分について、詳しく知ることができた。

議員との交流会で新たな視点や考えを発見でき、とても有意義な時間を過ごすことができた。

自分たちで考えた提案に対して回答があることがとても嬉しかった。

制作・発行 広島県 広島県議会

お問い合わせ
〒730-8511
広島市中区基町10番52号
広島県環境県民局県民活動課
TEL 082-513-2740
E-mail kankatsudo@pref.hiroshima.lg.jp

任命式

子供議員の代表者が、中本議長から任命書を、沖井副議長から子供議員バッジを交付されました。



日時 9月8日(日)
場所 県議会議場

議員交流会

6つのグループに分かれて、県議会議員に、質問や意見発表をうまく行うコツなど、色々な質問をしました。



日時 9月8日(日)
場所 県議会委員会室

子供議会の模様は、YouTubeで配信しています。



広島県議会事務局議事課
TEL 082-513-4731
E-mail gikaigiji@pref.hiroshima.lg.jp



広島県子供議会だより

令和6年度



広島県子供議会を開催しました。

これからの未来をつくる子供たちが、社会に関心を持ち、よりよい社会をつくるために何ができるかを考えるきっかけとするため、県と県議会が主催して「広島県子供議会」を開催しました。

県内の小学校5年生から中学校3年生までの45人の子供議員が、事前の勉強会で県や県議会の役割などを学んだ後、6つのグループに分かれて、「10年後の広島県がこうだったらいいのになあ」というテーマでアイデアを出し合い、現状や課題を分析したり、解決策について活発に議論し、質問や提案をまとめました。

当日は、任命式で交付された議員バッジをつけ、議員交流会で県議会議員に質問したり、議場での発表についてのアドバイスももらったり、本番に向けて気持ちを高めていきました。

広島県子供議会が始まると、県議会議員が実際に見守る中、湯崎知事や篠田教育長などに対して、みんな大きな声で堂々と質問し、答弁を受けました。

閉会時には、湯崎知事から、「皆さんが、広島県のよりよい未来のために様々な視点で課題を分析し、一生懸命考えられた提案はどれも素晴らしいかったです。また、本物の議場において発表することはと

ても緊張されたことと思いますが、そのような中、堂々と発言される姿はとても立派でした。今回、子供議会で経験したことを多くの友達と共有し、将来の広島県について、ともに考えていただきたいと思います。私たちも、皆さんの意見を参考に、『広島に生まれ、育ち、住み、働いてよかった』と心から思える広島県の実現に向け、引き続き頑張っていきます。」と、これからの広島県を担う子供議員に激励の言葉をかけられました。また、中本議長から、「6つのグループによる様々な分野の提案は、どれも素晴らしい内容でした。この経験を生かして、今後も様々なことに興味を持ち、チャレンジしてください。」と、激励の言葉をかけられました。終了後、子供議員からは、「色々な人と意見を交換でき、良い機会になった。」「自分が重要な役割を果たせたことで、自信を持つことができた。」「広島県の施策の知らなかった部分について、詳しく知ることができた。」「議員との交流会で新たな視点や考えを発見でき、とても有意義な時間を過ごすことができた。」「自分たちで考えた提案に対して回答があることがとても嬉しかった。」などの声があり、みんな達成感にあふれた表情をしていました。

令和6年9月8日



平和・観光グループ

北広島町立八重小学校	久野 柚瑠 議員
修道中学校	中島 永皓 議員
海田町立海田南小学校	竹本 虎太郎 議員
広島大学附属中学校	矢澤 輝一 議員
広島市立幟町小学校	桑田 潤平 議員
広島市立瀬野川中学校	谷村 健太郎 議員
安芸高田市立高宮小学校	久保田 紗英 議員
福山院の星女子中学校	永戸 あみ 議員

質問 被爆者(ひばくしゃ)が日本全国さらには世界で講演できる機会の充実(じゅうじつ)を図るとともに、講演の様子を文章や動画に残し、SNSで発信してはどうか。
修学旅行で広島を訪れる学生たちと私たちが平和学習を通して交流する機会を作ってはどうか。

答弁 G7広島サミットのような国際会議や、国内外の若者を対象とした平和について考えるイベントで、被爆者の体験を聞く機会を設けている。さらに、ウェブサイト上で、被爆者が被爆当時のことを紙芝居(かみしばい)で語る様子を動画で紹介(しょうかい)したり、被爆者の体験をSNSで発信している。今後も、積極的に被爆者の生の声を伝え、またAIなどの新しい技術を活用して、被爆者の声を引き継(つ)ぐことにより、次世代を担う皆さんの関心を高めていくとともに、将来にわたって平和の尊(と)びとさについて発信していく。広島を訪れる他県や海外の学校の児童生徒と、戦争や平和について意見を交流し、平和についての考えや理解を深めている学校もある。こうした皆さんの活動を積極的に応援(おうえん)していく。

平和への関心を深め、世界へ発信する広島県の実現

質問 広島県のような公共交通機関を利用して、滞在(たいざい)しながら県内の色々な場所を巡(めぐ)る広域周辺観光ツアーを組み、前面に押し出してはどうか。
広島県の特産物を使った広島ならではの菓子(おかし)の種類をもっと増やしてはどうか。

答弁 歴史的な町並みを今に残す大崎下島、「うさぎの島」として有名な大久野島など瀬戸内(せとうち)の島々を船で周遊するツアーや、緑豊(りょほう)な足谷(あしや)の島々を有する安芸太田町などをバスで巡るツアーが実施(じっし)されている。引き続き、こうした取組により、公共交通機関を利用した新たな周遊ツアーの造成を促(うなが)していくとともに、観光情報サイトやSNS等を活用して、積極的な情報発信を行っている。
G7広島サミットの開催を契機に、観光客や国内外マスメディア向けに、カキを使用したフライスナックやはさくを使用したり天など、県産の特産物を活用した新たなお菓子が開発され、定番化されているものもある。今後は、お菓子づくりの体験、観光プロモーションでの新たなお菓子の魅力(みりょく)発信などに取り組む。

よってみんなさいきてみんなさい広島県



地域振興グループ

近畿大学附属広島中学校東広島校	鎌倉 光平 議員
福山院の星小学校	石岡 祥 議員
修道中学校	小嶋 寿知 議員
福山市立本郷小学校	横山 葵音 議員
呉市立片山中学校	南園 亜海 議員
広島市立立上小学校	森脇 葉月 議員
広島市立古市小学校	平野 直 議員
広島市立荒神町小学校	番本 真ノ介 議員

質問 中山間地域にIT企業(きぎょう)や半導体工場など、人々を呼び込(こ)める起爆剤(きばくざい)となるものを誘致(ゆうち)してはどうか。
中山間地域に住む人たちが将来にわたって暮らし続けることができるように、環境を整備してはどうか。

答弁 広島県の産業を活性化するとともに魅力的な働く場を確保するため、デジタル系を中心とした企業誘致のほか、産業団地などへの工場の誘致や、県内企業の生産性向上を後押しする設備投資への支援などに取り組んでいる。今後も、中山間地域に1社でも多くの企業を誘致し、こうした企業へのサポートを継続(けいぞく)することで、魅力的な働く場を確保していく。
中山間地域に住む人たちが将来にわたって心豊かに、笑顔で幸せに暮らし続けるためには、移動の確保や、商店など生活を支えるサービスの維持(いじ)は、重要な要素とされており、こうした生活環境を整備する施策に、市町と連携(れんけい)して取り組んでいる。引き続き、中山間地域の生活環境の整備に向けて、様々な取組を行っている。

中山間地域の住みやすい街づくり

質問 広島県の都心にある場所を活用して、人が集まってイベントが開催できるようなしてはどうか。
「ひろしま」のブランディングを意識したイベント開催場所を国内外のアーティストやイベント主催者などにPRしてはどうか。

答弁 広島市とともに、「ひろしま都心活性化プラン」を策定し、「国内外から人を惹(ひ)きつけ、世界に広島を発信する。誰もが集えるにぎわいと交流の都市(まち)ひろしま」の実現を目指し、様々な取組を行っている。アリスガーデンでのまちなかライブや、京橋川や猿猴川(えんこうがわ)の川辺を使ったマルシェなど、様々なイベントを開催するほか、都心を楽しみながら歩いてもらうために、複数のまちづくり団体が連携した取組も行っている。
「ENERGY OF PEACE ひろしま」というシンボルマークを掲(か)げ、元気があふれ、おいしい食の宝庫でもあり、世界に誇(ほこ)れる暮らしやすい場所であることなどの魅力を発信している。今後も、こうした取組を積極的に進めることにより、多くのアーティストや主催者からイベントなどの開催場所として選ばれるよう努めていく。

広島県の立地などを生かしたイベントを増やす取組



くらし・交通グループ

北広島町立本地小学校	松長 航生 議員
安田小学校	上田 朱哩 議員
海田町立海田西中学校	多田 陽葵 議員
広島市立尾長小学校	阿部 拓社 議員
広島市立早稲田中学校	教誓 綸太郎 議員
広島女学院中学校	多田 絢音 議員
近畿大学附属広島中学校東広島校	田中 康士郎 議員

質問 自転車の交通ルールやマナーを学べるイベントを開催するなど、自転車の交通ルールをもっと多くの人に知ってもらうための取組をしてはどうか。
運転する人が、横断歩道でしっかり止まったり、注意することができるように、横断歩道をもっと目立つように工夫してはどうか。

答弁 「自転車の交通ルールを知ってもらうための取組」については、交通安全教育や広報啓発(けいはつ)活動の取組の一つとして実施している。自転車に関係する交通事故を一件でも少なくするため、交通安全に関するイベントを始め、各種対策を推進し、事故で痛い思いや悲しい思いをする方が一人でも少なくなるよう取り組んでいく。
トリックアートのような面白い工夫は、道路標示の存在を際立たせ、ドライバーがより注意するようになるメリットがある。しかし、必要以上に目立たせた場合、ドライバーがトリックアートに目を奪(うば)われてしまい、運転操作を誤るなどの恐(おそ)れが生じる可能性がある。可能な範囲(はんい)で、横断歩道などがより一層目立つような工夫を行うなど、道路標示などの整備を推進していきたいと思う。

交通事故の防止

質問 高齢(こうれい)の方が、免許(めんきょ)返納後も安心して、気軽に移動できるように、一部の地域で運用されている乗合タクシーの取組を拡大するように取り組んでどうか。
車を利用している人も公共交通機関にカードにポイントをつけたり、利用者が少ない時間帯に割引をするように事業者へ呼びかけてはどうか。

答弁 広島県では、日常の通院や買い物などに、便利に公共交通機関を利用していただくための仕組みの導入に対する支援(しえん)を行っている。例えば、安芸太田町では、こうした支援を活用して、自宅まで送迎(そうげい)し、乗降りの介助(かいじょ)もしてくれる定額乗合タクシーが運行されており、このような取組の成果も参考にしながら、県内各地で取組が進むよう後押し(あとおし)していく。
県内では、スーパーの駐車場(ちゅうしゃじょう)を利用してパーク&ライドを行った人に商品券を提供する取組が行われており、こうした取組を広げるため、公共交通の大切さを共有するための計画を作成し、利用者や交通事業者だけでなく、日常的に車を利用している人々も含め、公共交通の利用促進を図ることとしている。

誰もが気軽に移動できる広島県



福祉・ひとグループ

安田小学校	吉川 七美 議員
福山市立東小学校	山本 直子 議員
広島市立天満小学校	志治 加奈子 議員
三次市立十日市小学校	田中 育汰 議員
三次市立十日市小学校	西森 心奏 議員
東広島市立向陽中学校	上川 綾乃 議員
東広島市立向陽中学校	黒田 千尋 議員

質問 盲導犬などの補助犬を増やすため、訓練を行う事業者への補助、公的訓練施設の整備などの支援を行ってはどうか。
「見て触れる体験会」や「啓発ポスターコンクール」、「街中への募金(ぼきん)箱の設置」など参加・体験型の啓発活動を行ってはどうか。
最近、研究が進んでいる「QRコード付きの点字ブロック」や「しゃべる点字ブロック」などの「ITやAIを活用した点字ブロック」を道路や施設のほか、お店などに広く設置してはどうか。

答弁 県内の補助犬育成団体に対して、1頭当たり約200万円を補助している。今後も、希望する方に補助犬を届けることができるよう、必要な支援を行っていく。
これまで12月に開催される人権啓発イベント「ヒューマンフェスタひろしま」において、新たに補助犬とパートナーになる方を紹介するセレモニーや補助犬の仕事について知ってもらうためのデモンstrーションを実施するなど、県民の皆様へ補助犬について知ってもらう機会をつくっている。子供から大人まで多くの人が積極的に参加したいと思ってもらえるような参加・体験型の啓発活動を充実させるなど、今後も補助犬に対する県民の皆様への理解を深めていく。
「広島県福祉(ふくし)のまちづくり条例」を作り、公共施設や視覚障害のある方が多く利用する道路に点字ブロックの設置を進めてきた。各種取組により、障害の有無にかかわらず、誰もが暮らしやすい広島県の実現を目指していく。

障害のある方が暮らしやすい広島県

質問 妊婦(にんぶ)さんが安心して妊娠(にんしん)生活を送り、希望する地域や施設で出産できるように分娩施設(ぶんべんしせつ)や産科医師を増やす取組を進める必要があるのではないかと。
子育て中の親子が気軽に立ち寄り、楽しめる場があればいいのではないかと。

答弁 広島県で働く医師を志す大学生を対象とした奨学金(しょうがくきん)について、令和2年度から、産科医師については奨学金を返さなくてもよい要件を拡大し、産科医師になりやすい環境づくりに取り組んでいる。どこに住んでいても、安心して妊娠・出産できる体制づくりに、引き続き取り組んでいく。
県内の全ての市町に、子育て支援施設として、「地域子育て支援拠点(きょうてん)」の設置を進めている。相談できる場所や、気軽に立ち寄れる場所があることをもっと多くの人に知ってもらい、安心して出産・子育てができることと実感してもらえよう、引き続き取り組んでいく。

出産から子育てまで安心できる広島県



学校・学びグループ

廿日市市立宮島中学校	山下 日奈帆 議員
三次市立酒河小学校	齊木 海仁 議員
廿日市市立大野西小学校	元矢 侑希 議員
福山市立城北中学校	鯖江 百波 議員
三次市立八幡小学校	古田 真義 議員
東広島市立高美が丘小学校	吉田 美晴 議員
広島市立幟町小学校	桑田 真依 議員
廿日市市立阿品台中学校	小林 海洋 議員

質問 タブレットを有効に使うために、タブレットを家に持ち帰ることを可能にして、家から授業を受けやすくしてはどうか。
県内の小・中学校にeスポーツに関する部活動を作ってはどうか。

答弁 タブレット等を自由な発想で活用し、主体的に学ぶことができるよう日常的に使える環境(かんきょう)を整えることは、大切である。タブレット等のデジタル機器を日常的に持ち帰り、家庭でも、学校の授業と関連させた活用が進むよう、先生を対象とした研修会で良い事例を紹介するなどしており、今後も効果的な学習につながるよう取り組んでいく。
eスポーツは、年齢や性別・国籍(こくせき)・障がい等の壁(かべ)を越(こ)えて、誰もが参加することができるなどの良さもある。一方で、コンピューターゲームを長時間行うことによる視力の低下やゲーム依存(いぞん)など健康面への影響(えいきょう)があるとも言われている。皆さんも、クラブ活動や部活動の意義やeスポーツの良い点、気をつけるべき点などについてよく考え、部活動としてeスポーツを取り入れることについて先生方と話し合ってみてはどうか。

ICTの有効活用

質問 県内の小・中学校と海外の学校の間で姉妹校を結んで、姉妹校の児童・生徒と交流できる授業や海外の文化に関する遊びや行事等を導入してはどうか。
給食の食べ残しを減らす工夫として、例えば苦手で食べられないおかずを他のおかずへ変更(へんこう)できたり、どうすれば食べることができるようになるかを考えて、実際に自分たちが考えた献立(けんたてい)が提供される仕組みを取り入れてはどうか。

答弁 全ての県立高校で海外の学校との姉妹校交流を実施することに加え、県内の中学校でも、海外の学校とのオンラインによる交流を行うことを支援している。今後も、皆さんが異文化に触(ふ)れたり、他国の人々と交流したりする機会を充実させることができるよう、しっかり応援(おうえん)していきたいと考えている。
学校給食を残さず、おいしく、楽しく食べることはとても大切なことである。給食の提案については、例えば、総合的な学習の時間で、地場産物を活用した給食メニューを自分たちで考え、実際に、学校給食で提供する取組を行っている学校がある。それぞれの学校が行っている様々な学校給食についての取組を他の学校にも紹介していく。

学校生活の充実



防災・環境グループ

海田町立海田西中学校	島本 瑞樹 議員
広島市立大塚小学校	朴 航治 議員
呉市立音戸中学校	片山 暉斗 議員
広島市立荒神町小学校	山上 慎吉 議員
AIC国際学院広島初等部	成田 孝高 議員
広島市立尾長小学校	阿部 奏穂 議員
尾道市立栗原中学校	青山 希美 議員

質問 ハザードマップについて、地形の変化や新しい建物に対応できるよう更新頻度(こうしんひんど)を多くしたり、利用者に正しく危険を伝える工夫をしてはどうか。
障害のある方、外国人、他県や外国からの旅行者などにも分かりやすく伝えられるハザードマップや避難所(ひなんじょ)の表示を、より多くの言語や絵などを使って工夫してはどうか。

答弁 がけ崩(くずれ)れなどの土砂災害の危険性がある土砂災害警戒(けいけい)区域等や洪水(こうずい)、津波(つなみ)、高潮などによる被害の恐れがある浸水(しんすい)想定区域等について市町へ情報提供し、各市町ではそれらの情報を基にハザードマップを作成して、印刷物やHP、イベント等により、住民の皆様への周知を図っている。避難所の表示については、ピクトグラムにより標準化されており、引き続き市町に対しこの方法による表示を促すとともに、市町と連携し地域の避難所の周知に取り組んでいく。
障害のある方については、県内の市町に対し、ハザードマップや避難所の表示に点字、音声、イラストを用いたり、文字を大きくするなど情報を理解しやすいような工夫を行うよう促している。引き続き市町と連携し、全ての人が迅速(じんそく)かつ円滑(えんかつ)に避難できるように、点字、音声等を活用した情報発信の工夫や災害時における避難情報等の多言語化による情報発信の取組を進めていく。

避難所やハザードマップの安心・安全性

質問 自然や動物の大切さを知ることのできる博物館などをつくってはどうか。
ごみ拾いを通して、自然界のごみの問題に関心を高めるイベントを行ってはどうか。

答弁 誰もが自然や動物の大切さを学ぶことができるよう、動画や図書館、公民館でのパネル展示などによる数が少なくなってきた動物の紹介や、川や田などでのいきもの観察会の実施などに取り組んでいる。「自然や動物の大切さを知り、実際に行動する人」を増やしていきたいと考えている。
企業等と連携した海岸清掃(せいそう)イベントの実施や、県内市町やボランティア団体等が実施する清掃活動の情報を紹介するなど、事業者や県民の皆様にも広く参加を呼びかけている。事業者や市町と連携し、自然環境がよく、人も動物も共存できる広島県の実現に向けて取り組んでいく。

自然や動物を大切にしたい広島県の実現